

# まちづくりビジョン策定委員会（第9回）会議録

■ 日 時：平成26年5月9日（金）午後2時30分～午後5時20分

■ 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第1会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（11／13名）

小林 洋、河合 生博、小野 章一、鈴木 和雄、津久井 功、持谷 美奈子、  
中島 エリ、金子 崇範、高橋 直也、本多 圭仁、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（3／3名）

まちづくり交流課長 宮崎 育雄、商工振興GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

■ 配布資料

資料1 まちづくりビジョン中間報告会プレゼン資料（案）v. 03

■ 会議内容

---

## 1 開会

## 2 議事

■ ビジョンづくりのプロセスについて

- ・ユネスコエコパーク認定については、答申を待たなくても、例えば6月議会の段階で予算化したり準備室を設置したり、早い段階で機関決定して方向性を示すべき。町でエコパーク認定の方向性を示したら、認定されるまでの期間も経過を報告したり、エコパークの活動事例を紹介したり、町内外に広報して教育する必要がある。

■ なぜまちづくりビジョンの策定が必要なのかについて

- ・町の30年後の人口推計がかなり衝撃的である。出生数を急激に伸ばすことはできないので、20～40歳代を中心に外部から移住させる仕掛けができないか。日本創世会議が公表した「全国市区町村別「20～39歳女性」の将来推計人口」によると、30年後の若者女性の人口が本町においても△66.4%との推計が示されており、10年後を見据えたビジョンを策定する必要がある。ただし、全国の半数以上の自治体で半減すると推計されていることから、この問題は地方だけの問題ではなく、国全体の問題である。

■ まちづくりの課題と優先順位について

- ・人口や観光入り込み客数などの目標値は、最終的には具体的に示す必要はあるが、中間報告の段階では××としておき、口頭で説明する程度にとどめる。観光の目標値を決める際には、観光協会などの利害関係者とコミュニケーションをとる必要がある。

■ ユネスコエコパークの付加価値について

○ 新たに追加した付加価値を中心に、内容を確認する。

- ・【付加価値1】世界のエコパークと未来のエコロジーが学べるワールドパビリオンについては、建設することが目的ではなくて、10万人単位の教育旅行を誘致することが目的である。そのためには、ディズニーランドの1つのアトラクションほどの規模のものが必要で、建設に企業の協賛を得ることも考えられる。コンテンツが重要であり、経営者は外部から連れてくる必要がある。
- ・【付加価値5】環境省・大学エコロジー研究所、エコベンチャー誘致を新たに追加する。東京から新幹線で1時間強と、エコパークでも都心に一番近いという利点を生かして、エコロジーに関する研究所を誘致する。エコパークに認定され研究所を誘致できれば、エコベンチャーの誘致がしやすくなる。
- ・【付加価値15】ふるさとを愛する次世代の育成を追加したい。エコパーク認定を申請するには町の資源や文化をまとめることになるので、これらを活用して子供達に町の魅力を教育することで、郷土愛を育みたい。地元の人ほど歩かないし、スキーや農業も体験していない。レクリエーションとしての体験ではなく、郷土に関する教育をカリキュラムとして町内の小中学校に必須としたい。

■ 最大の資産である里山を活かした地域経営モデルについて

- ・「里山」について、共通認識を持っていないと議論に食い違いが生じるため、定義を統一する必要がある。一般的には、里山は自然林の裏山（薪山）や桑が生い茂った耕作放棄地などをさすが、伐期を迎え間伐しなければならない山が多く存在するし、いろいろなエリア（人工林や自然林など）が入り組んでいて厳密に区分することが困難であるので、ここでは「里山」＝ユネスコエコパークの移行地域（トランジットエリア）として捉える。この範囲で林業も行われているが、中心にある里山整備と林業的な森林整備は区別して捉える（農業と同じ並びに林業を配置する）必要がある。
- ・人工林で林道が整備されているところは森林組合が補助事業で間伐することで採算が取れるが、対応できない山もたくさんあって、搬出が困難なものは放置されている状態であり、財源をどのように捻出するかが課題である。
- ・整備の対象となる民有林の人工林（保安林を除く）は、森林簿上約3,400ヘクタール程度である。

■ まちづくりビジョンのロードマップについて

- ・10年後の将来像を実現するためには毎年の計画を策定する必要があるが、実行段階で変更となるかもしれないが、委員会である程度の数値目標を示しておく。
- ・ユネスコエコパーク認定については何としても認定を取得すべきであって、計画通りにいかなかった場合の代替案は必要ないのではないかと。ただし、その他の付加価値については、計画通りにいかなかった場合、計画を練り直す必要がある。

3 次回委員会の開催について

○ 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：5月23日（金） 午後2時30分から

場所：観光センター 2階 第1会議室

4 閉会